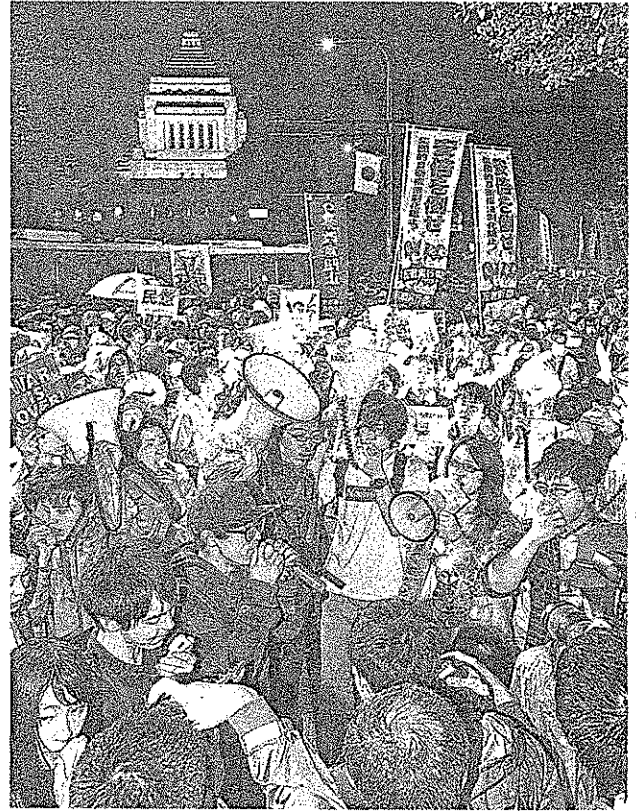


やまぬ「安保法反対」



国会前で安保関連法案に反対し、氣勢をあげるデモ隊たち（17日夜）

デモの声 野党後押し

安保関連法案に反対する野党は十六、十七両日、成立阻止に向けて徹底抗戦を続けた。野党を後押ししたのは降り続く雨の中、昼夜を問わず国会前に集まったデモ隊の存在だ。抗議の掛け声は、国会の中に届いていた。●面参照
(新聞浩)

十七日午前二時ごろ、安保法案に関する参院特別委員会の廊下で、強行採決の阻止行動を続けていた民主党の参院議員は、「デモ隊が頑張っているのに、後に引くわけにはいかない」と表情を引き締めた。委員会室は、デモ隊が集まっている国会正門前の路上から約三百

を阻んだ。午後十時ごろ、山崎正昭参院議長の指示で、数十人の衛視が野党議員をどかせようとした。衛視は人垣を組んで、鴻池氏の通路の確保を試みたが、野党議員は「暴力反対」などと叫んで抵抗し、衛視ともみ合いになった。鴻池氏は委員会室に入らなかつた。現場にいた民主党の郡和子参院議員は「外では土砂降りの中でデモ隊が頑張っている」と同僚議員を励ました。芝博一参院議員は「デモ隊も委員会を開けな

鴻池委員長「審議ほぼ尽くされた」

参院平和安全法制特別委員会の鴻池祥肇委員長は十七日、安全保障関連法案の特別採決時の混乱について「ああいう形での採決は本意だが、審議はほぼ尽くされた」と感じた。参院として結論を出す時期だと判断した。述べ、採決は妥当だったとの認識を示した。国会内で記者団に話した。民主党などからの「強行採決」との批判には「自民党と公明党だけが強行だが、(次世代など)三党が野党ながら賛成に回った。強行採決ではない」と反論した。十六日夜の特別委開催に反対する野党議員が理事会室前に多数詰め掛け、十七日未明まで室外に出られなくなったことに関しては「女性がバリケードを組んでいた。私が下手に動いてけがでもさせてはいけない」と思い、中であらずと我慢していた」と語った。

国会内の状況が分かっているから、すごい勢いだ」と、意を強くした。与野党のにらみ合いは続き、息苦しい緊迫は十七日未明にもつれ込んだ。鴻池氏は午前二時半すぎに「休戦を宣言。午前八時五十分の理事会再開を決めた。与野党議員が現場を後にした。午前四時すぎも、デモ隊の大鼓は鳴りやまなかった。一夜明けた十七日午前、議事を強行しようとした鴻池氏に対し、野党は不信任動議を提出した。午後、民主党の福山哲郎氏は趣旨説

が、民主党幹部は「これだけ世論に押され、直結した国会は久しぶりだ」と成立阻止に全力を挙げる姿勢を崩さなかつた。

9/18
日誌